

愛の星



社会福祉法人 東京聖ビンセンシオ・ア・パウロ会

愛星保育園

〒108-0074 港区高輪1-27-40

TEL. 03-3441-5410

FAX. 03-3441-5436

E-mail aiseihoikuen@fancy.ocn.ne.jp

<http://www.aisei-hoikuen.com>



園の花（すみれ）

2020・第1号（通算163号）2020年4月1日



ご入園、ご進級おめでとうございます。

園長 村岡 恵美子

今年度は、新入園児16名を迎えて72名でのスタートとなります。一人一人の姿や成長、思いを大切に、丁寧に保育していきたいと思います。

今年度も愛星が保育のポイントと考えている5本の柱【体力・音楽力・創作力・栽培力】の向上、食育活動の推進を中心に、保育所保育指針で示されている『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』とのつながりを考えながら保育に取り組んでいきたいと考えています。10の姿とは、到達点ではなく子どもたちがどんな道筋を通過して育っていくかを見守るためのものであるため、各年齢の発達、興味に合わせて日常の保育にバランスよく取り入れ、子ども達が様々な経験ができるように取り組んでいきます。

昨年度は“楽しい保育”ということで子ども達と“楽しい”を探しながら保育をしてきました。今年度はその楽しいを継続することで、一人一人が期待をもって“ワクワク”できる保育を目指します。ワクワクにはいくつかあると考えます。新しい遊びや環境を取り入れることにより「これはなんだろう」「どうするのかな」と知らないことを知る楽しさであり、新しいことに対する未知への期待のワクワク。それとは逆に“楽しい”が継続し、「今日もやってみよう」「あれ？昨日と違うな」「こうしたらどうなるだろう？」と継続していることが少しずつ変化していくことのワクワクもあります。楽しかった経験をしたからこそ、次への期待が生まれまたやりたいという気持ちにつながります。そのためにもまずは自分のしたいことを見つけること。そしてそれについてどうしようかと考えること。考えたことを実践することが大切であり、それができる環境づくりに努めています。

保育者は、子ども達の姿から今この子は何をしようとしているのかをしっかりと捉え、必要な援助はしてもすぐに答えを出すのではなく、子ども達の一人一人の力を信じ自分で見つけ、考え、行動できるような関わりを大切にします。そして、共感しながら自信へとつなげていくことで、子ども達からたくさんの「また、やろうね」が聞かれるような保育を展開していきたいと思います。

また、今まで以上に子ども達の姿を伝え、子どもとのコミュニケーションや家庭での子育てのヒントとしていただくことで、保護者の皆様には子育てが楽しいと感じ、子どもの成長にワクワクできるようなきっかけ作りを行います。

地域の子育て家庭、地域の方々にも活動内容をホームページ等で発信し、より多くの人に参加しやすい環境を作ります。さらに「また来たい」と思えるような内容を増やすことで愛星に行けば、愛星と一緒に様々なワクワクを見つけられるという期待につなげていきたいと考えています。

今年度も子ども達一人一人の成長をしっかりと見守り、子ども達の成長を通して、『子も親も職員もともに育ち合う』を実践できるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。



“ワクワク”する保育



0歳児 ゆり組



◎保健的で安全な環境の中で生理的欲求を満たし、一人一人の生活リズムを大切にしながら安心して過ごせるよう保育します。

→初めての生活にワクワク（ドキドキ）できるように個々の様子をしっかりとみて過ごせるようにします。



◎安心できる環境の中で、聴く、見る、触れる等の体験を通して身の周りに対する興味や好奇心の芽生えを育みます。

→小さな経験を重ねながら次への興味・好奇心に繋がられるようにします。



◎個々の発達に合わせて離乳の完了、歩行、運動発達を助け、言葉の習得や周囲の物事や友達への興味関心を養います。

→様々なものを食べ、たくさん遊び、保育者や友達と関わる中で刺激を受けて過ごします



1歳児 もも組



◎安定した生活のもと、保育者の見守りや援助で簡単な身の回りの事を自分でしようとする気持ちをもてるようにします。

→自分でできたという喜びが、また次も自分でしたいに繋がるように、見守ることも大切にしながら、少しずつ自立性を育んでいきます。



◎一人あそびの保障のもと、保育者の仲立ちを通して友達との関わりを広げていきます。

→一人一人が安心して遊べる環境を整え、少しずつ友達との輪も広げながら、一緒に遊ぶ楽しさから社会性を育んでいきます。



◎自分の思いを言葉や体で表現し、やりとりの楽しさ、思いを受け止めてもらう安心感を感じることができるようになります。

→安心できる保育者との関わりを通し、自分の思いを受け止めてもらう安心感を喜びに繋げ、子ども達が自己発揮できるように過ごしていきます。

“ワクワク”する保育



2歳児 つくし組



【年間保育目標】

- ・一人一人が安心して園生活を送り、十分に自己発揮できるようにする。
- ・保育者との安定した関わりの中で、身の回りのことを自分でしようとする。
- ・自分の要求が伝わらずに葛藤することがあるが、保育者に支えてもらいながら自立の芽生えが育つ。
- ・戸外あそびを十分に取り入れ、全身を動かして活発に遊ぶ。
- ・保育者を仲立ちとし、友達とぶつかり合いながら、相手の気持ちに気づき、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。



一人一人が安心できるよう、また様々なことに挑戦できるよう、子ども達の様子に合わせて保育者同士連携を取りながら関わっていきます。これからますますイメージをもって遊ぶことが楽しくなる時期のため、ドキドキ・ワクワクの思いをもちながら日々過ごせるよう、私たちも計画していきます。友達との関わりが多くなる分、ぶつかり合うことも出てくるかと思いますが、保育者が仲立ちとなりながら友達と一緒に過ごす楽しさを味わっていただけるようにしたいと思っています。



3歳児 たんぽぽ組



◎自分でできることに喜びをもち、基本的な生活習慣を身につけていきます。

→生活の流れがわかり、自信をもって自分のことが出来るようにし、食事・排泄・午睡・着脱・清潔などの基本的な生活習慣を身に付けていきます。

◎保育者との安定した関係の中で、心の自立を育みます。

→保育者との信頼関係を築き、心の安定や社会性を育てていきます。

◎さまざまな経験を通して表現をし、感性を豊かにします。

→子ども達がワクワクする活動を取り入れていきます。



“ワクワク”する保育



4 歳児 すみれ組



自分で出来ることが増えて、園生活を楽しむ

- ・大人が認めたり、褒める言葉掛けを行い、行動に自信がもてるように関わっていきます。
- ・できない時の姿も見逃さず、見守っていることを伝え、安心感をもちながらできないことに挑戦をする気持ちがもてるように関わっていく。

友だちと過ごす心地よさを知る

まずは保育者が主導となり、集団あそびを取り入れることで、友達とやりとりをしながら遊ぶ楽しさ、その中にはルールを守って遊ぶことで皆が楽しいんだということを感じながら友達と関わることの楽しさ、友だちを頼っても良いということを知っていきます。



「なぜ?」「どうして?」と感じる気持ちが育つ

保育者が全てを知らせるのではなく、実体験、自分で調べることで探求心が芽生えるように関わっていきます。また子どもが不思議に感じたことを保育者がその都度投げかけられるように準備をし、一緒に調べられる環境を整えていきます。



夢中になる遊びとの出会い

遊びをどのように発展させたらより夢中になれるのかを考え、保育者が提案・ヒントを出し、友達同士で自主的に遊びを進める環境を作っていきます。



5 歳児 ひまわり組



◎健康や安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもった生活をしていきます。

→<自分で考え自分で行動することで思考力や行動力を育みます>

今までの経験から一日の流れに見通しをもって生活をし、自分の健康や安全に必要なことを考えながら過ごすことを身に付けていきます。

◎友達との関わりを深め、協同性や思いやりの心を育みます。

→<友達と力を合わせる楽しさや仲間ができることの心強さを知る>

保育者の見守りの元、友達の思いを知り、認め合い、信頼感のある関係を作っていきます。善悪の判断を自ら行い、時には友達と指摘し合いながらよりよい関係づくりができるように援助していきます。

◎様々な経験を通して自信をもち、『自立心』と『自律心』を養います。

→<自信をもって様々なことに挑戦し、自分の世界を広げていきます>

子どもたちの興味に合ったものやそのきっかけになる活動を取り入れ、一つ一つが子どもたちの力となって、いろいろなことに挑戦できる強い心を育てていきます。

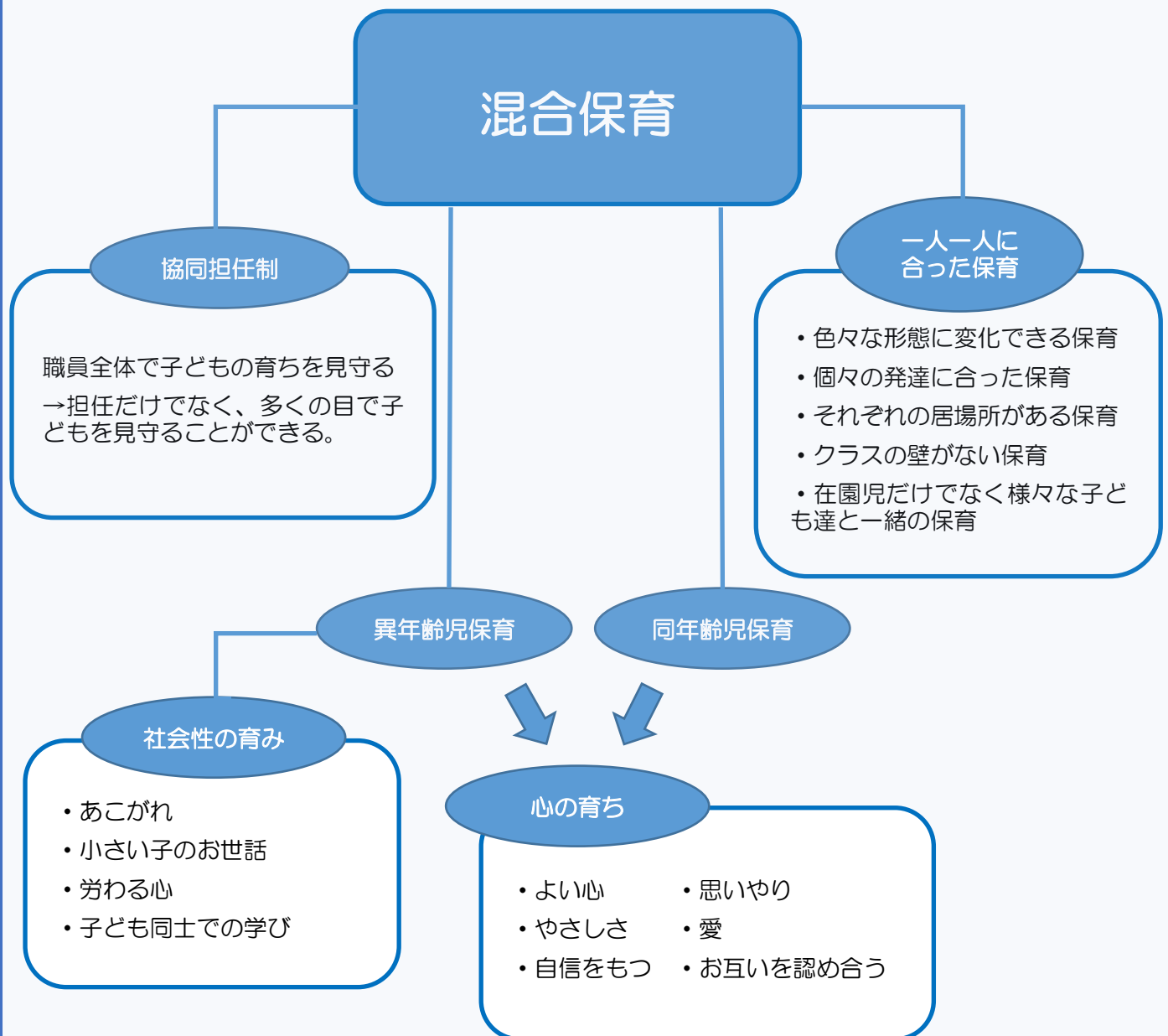


“ワクワク”する混合保育

年齢区分に捉われず、子ども同士の成長・発達に合わせながらも互いの交流を通しての育ちを大切にし、必要に応じて異年齢児交流を日常的に展開していく「混合保育」を取り入れています。

今年度は、さらに“ワクワク”をキーワードに、子ども達が異年齢との交流を楽しみ、「また遊びたい」と期待の持てる交流や活動を行います。

◆ 次の中から子ども達の“ワクワク”を引き出します。



◆ “ワクワク”する活動

・同学年であっても月齢等により個人差がある場合もあります。様々なクラスと一緒に遊んだり生活する中で、刺激を受けたり、自信をつけることで、「やってみたい!」という気持ちにつながります。

・混合保育の中でも、一人一人がやりたいことを集中してできるよう、安心できる環境づくりを行い、子ども達の主体性を育みます。

“ワクワク”する給食



『楽しく食べる』

バランスを考えた献立を美味しく調理して提供しよう心掛けていますが、野菜嫌いの時期でもあり食べ進まないメニューもあります。そんな時が職員の腕の見せ所、楽しく関わり、嫌いなはずの野菜料理をおかわりする姿もあります。大好きな大人と食卓を囲み温かいコミュニケーションを図るのが愛星の食事です。今日の、給食は何？“ワクワク”して待ってもらえるように取り組みます。



『食農』

栽培した野菜を食べる経験で収穫物の美味しさを知る。野菜が育っていく様子を観察し収穫を期待しながら待ちます。



『おはなしメニュー』

たとえば、シンデレラのお話を題材にした、「かぼちゃのスープ」など、絵本やお話をヒントにした献立で、子どもたちが“ワクワク”できるメニューづくりを行います。食材への興味や食事の楽しさを感じる機会になればと考えています。



『参加する給食』

保護者の方も、子ども達も、職員も全員が意見を出し合って献立を決めていきたいと思っています。すでに昨年より調理員が考えた献立を提供していますが、保育士からの意見、保護者の皆様よりレシピをいただきながら共有する給食をめざします。「また、つくってね」子どもの意見を尊重する給食づくり。調理保育は何日も前から楽しみに待つ姿があります。できるだけ多くの機会を設け、作ってから試食まで体験する中で、調理の楽しさ、食べる喜びを実感してほしいと考えています。

